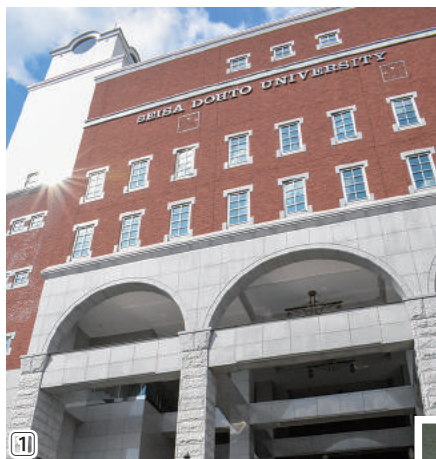


SEISA

Group News

★  もっと仕事で  遊びたい

星槎グループニュース VOL.112



⑪

- ▶ 星槎が進める国際交流
Part1 事前キャンプを
箱根キャンパスで実施
- ▶ 星槎大学と横浜市が連携協定
- ▶ 学校法人星槎こども園
KIDS planet
- ▶ ブータン「山の教室」試写会
- ▶ 星槎が進める国際交流
Part2 SAAB Photo Report



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰

事前キャンプを全力サポート

TOKYO2020 オリンピック大会、そして、パラリンピック大会が、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響から、史上初の1年延期となり、さらに、無観客、予想を超えた“暑さ”の中での開催と、異例づくめではありましたが無事に閉幕することができました。

また、各国の選手や役員にも大きな負担のかかる中での開催でありましたが、星槎箱根キャンパスにてブータンよりオリンピックではアーチェリー選手1名、パラリンピックでは陸上競技選手2名、アーチェリー選手1名を迎え、事前キャンプが行われました。当初の予定とは異なる形となりましたが、ホストタウンである神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町と連携して選手団を迎え入れ、オンラインを活用して地域の方と交流し、応援メッセージを選手たちへ届け、各国との友好を深める意義のあるプログラムを実施することができました。選手団からのコメントを一部抜粋してお届けします。

オリンピック・ブータン代表 カルマ選手（アーチェリー）

オリンピック事前トレーニングキャンプでは、素晴らしい練習環境を用意してくださり、そしてビックリすることばかりの連続の日々で、言葉では表せないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

できることなら、オリンピックで1勝し、その時に「星槎、ありがとう」と叫びたかったのが本音ですが、それができずに残念です。

TOKYO2020 オリンピックへの出場は、5年前のリオとは違って、実力で勝ち取って来た想い入れの強い大会です。いろいろなことがありましたけど、大変満足がいくものになりました。サリコーチとこうやってマンツーマンでやってきて、そして東京の舞台に立つことができました。大変嬉しかったです。

今回の自分のパフォーマンスに満足しています。事前キャンプは予想以上の毎日で、とても充実していました。夢だった着物（浴衣）を着ることができました。それ以外でも色々な経験ができ、毎日笑顔でいることができました。ありがとうございました。温泉も最高でした。また来たいです！

次の新たな目標は、やはりパリオリンピック出場を目指します。そのための努力をこれからしていきます。実力でスポットをまた勝ち取ります。そしてまた日本に来たいと思っています。皆さんとまた会える日を楽しみにしています。ありがとうございました。



パラリンピック・ブータン代表 チミ・デマ選手 （F40 陸上砲丸投げ）

TOKYO2020 パラリンピック競技大会ブータン代表のチミ・デマです。私は TOKYO2020 パラリンピック競技大会で、ブータンを代表する最初で唯一の女性パラアスリートとなりました。

日本に来ることができ、また星槎箱根キャンパスにも来ることができてとても幸せでした。ありがとうございました。沢山の方が歓迎してくださり、特に星槎グループの皆さんが良くしてくださり、言葉では語り尽くしようがありません。大きな誕生日ケーキもありありがとうございました。人生で初めてあのような大きいケーキを食べました。

私は、TOKYO2020 大会に出場することができて、とても興奮しましたし、全てに感動しました。自己新記録も嬉しかったのですが、星槎箱根キャンパスに着いた時は、私の心に安堵、幸せ、そして安心感を抱くことができたのは、宮澤会長や星槎グループの皆さんのおかげです。

私は、パラリンピック競技大会を、ブータンを代表するパラ陸上選手として叶えることができて、とても幸せです。また、エキサイトしていて、そして誇りに思っています。パラリンピック競技大会に出場して、何よりも自分の国ブータンを代表する最初の女性パラリンピアンであることを名誉だと思いました。最初であるということから、私は、私自身に誇りを持っていました。

私のコーチはよく星槎グループの話をしてくれず。とても勇気づけてくれます。物理的な距離があっても私たちが一つのチームであると話をしてくれます。私が、私の人生に対して否定的に何かを考えていることをコーチは嫌います。今の私がここにいるのもコーチのおかげです。チームメイトのギルツェンは、私をとても元気づけてくれます。日本に皆さんと一緒に居て、星槎箱根キャンパスで事前キャンプができて、とても幸せでした。また戻って来たいです。TOKYO2020 パラリンピック大会ではありがとうございました。



パラリンピック・ブータン代表 ペマ・リグゼル選手（アーチェリー）

TOKYO2020 パラリンピック大会では大変お世話になりました。初めて日本に入り、箱根に着いたとき、とても興奮しましたし、幸せでした。箱根がまずとても美しかったこと、とても綺麗な景色が広がっていて、全てが印象に残っています。

TOKYO2020 パラリンピック大会に出場が決まったとき、とても興奮し、そしてとても嬉しかったことを今でもハッキリと覚えています。ブータンを代表し、パラリンピックに出場することを誇りに思っています。これもひとえに宮澤会長や星槎グループの皆さんのおかげです。ありがとうございました。

今回の出場を経験をし、誰もがこのチャンスを得られるのではないと改めて実感しました。だからこそ、私は最高に幸せだと感じています。私は、ブータンを代表し、そして、人生で最高の瞬間を迎えることができました。勿論、これが終わりではありません。全てが始まったばかりです。

パラリンピックの選手になって、思い起こせば、沢山の人の違うことができ、可能性が広がり、そして諦めかけていたことが叶っています。皆が違う経験をさせていて、そんな人々との出会いがあり、友達ができ、私は失った自信を取り戻すことができました。

パラリンピックの選手になる前、私は何もしていませんでした。ただ家に居て引きこもり、何もしていませんでした。そんなある日のことでした。ブータンアーチェリー連盟の友人ダワがパラ選手としてチャレンジしてみたら？ と提案してくれました。ダワが「あなたならできる！」と言ってくれて、やる気になり、チャレンジすることになりました。

私と同じような病気で手術をして歩けなくなったりしている人がいるのなら「人生はそこで終わりではない。いくらでも可能性はある。とにかく諦めない。夢を持ち続けること。そうすれば叶う」。私も今の人生以上のことを成し遂げるために、これからもっと努力していくことを約束します。

星槎の皆さん、日本で、箱根で本当に仲良くなり、友達になり、家族のようになってきました。お互い助け合いました。チーム・ブータンを代表して、私たちは、大変感謝しています。ありがとうございました。また逢いましょう！



パラリンピック・ブータン代表 ギルツェン選手（F40 陸上砲丸投げ）

ギルツェンです。私は TOKYO2020 大会パラリンピック競技大会にブータン代表として陸上競技砲丸投げに出場した陸上選手です。競技経験が2年あります。現在28才です。独身です。TOKYO2020 大会では、星槎箱根キャンパスに来られて、事前キャンプを星槎とできてとても幸せでした。星槎の皆さんや神奈川県の方々のホスピタリティに包まれ、とても幸せに感じる事ができました。ありがとうございました。

今回これがパラリンピック競技大会への初出場で初代表となりました。とても幸せなことだと思っていて、千載一遇のチャンスだとも思いました。パラリンピックのおかげで、私の人生が大きく変わりました。外国に行くことも初めてでした。パラリンピックのことも知りませんでしたし、スポーツをすることもありませんでしたが、私はパラリンピックを通じて、新しいことを沢山学ぶことができました。スポーツもパラリンピックに関しても、より多くの知識を得ることができました。

試合後の今、更なる先を目指し、そして自分の経験を人々に伝え、国の中で私のような人たちの手本になりたいと思い行動しています。来年神戸で行われるアジア選手権に出場したいです。そして、次の2024年のパリパラリンピックにも挑戦したいと考えています。

今後私は、自分と同じような人を見かけたら、私たちは一人ぼっちではない。チャンスをつかみ、人生を前進させよう、と伝えていきます。パラリンピックで、私と同じような特性の選手達を見ると、自分の目標を達成するためにもっともっと頑張ろうという気持ちになります。この活動に参加できたことをより幸運に感じます。ありがとうございました。



星槎大学—横浜市と「障害者の雇用促進、定着支援」に関する連携協定を締結

令和3年3月星槎大学は横浜市と「障害者雇用の促進と定着支援」に向けて連携協定結びました。星槎グループの教育における実績・知見を活用し、横浜市における障害者の雇用、活躍や定着に向けて「共創」し、共生社会の新しい価値の創出に向かうものです。

共創にいたる経緯

星槎では、「100人100通りの才能があり、それぞれが活躍できる場面がある」との考えから、生徒たちが輝けるさまざまな教育場面を創造し続けてきました。また、社会に出てからも可能性を伸ばして自己実現できるようインターンシップなどのキャリア教育を充実させています。

一方、横浜市においても、障害者雇用に積極的に取り組んでいます。

近年では、横浜チャレンジオフィス^(※1)の設置や、職域の拡大、定着支援、環境整備にもより一層の取組みを始めています。その中で生まれた「雇用率では計れない職員の働く喜び、幸せをどう実現するのか」等の命題に対して、星槎大学では、横浜市の「共創フロント」制度を活用し、共に新しい障害者雇用創造に向けて、①研修プログラムの共同研究 ②セミナー、シンポジウム等の共同開催 ③職域の拡大、定着のための提案・助言提案するに至りました。

今後の展開

「全国に広げたい雇用のD&I（ダイバシティ&インクルージョン）」

日本における障害者雇用については、徐々に改善しつつありますが、まだまだ多くの課題を抱えています。今後は、横浜市における実践（仮称ヨコハマモデル）を基盤として、全国の自治体や企業の障害者雇用促進につながる提言をしていく予定です。この取組みにより、SDGsの観点からも、障害者ひいてはすべての人が差別されることなく、その多様性を活かして生き生きと働くことのできる共生社会（D&I（ダイバシティ&インクルージョン））の実現をめざしていきます。

（星槎大学 三森睦子）

（※1）横浜チャレンジオフィス
総務局人事課で雇用をしている障害のある会計年度任用職員が、庁内の各部署から集約した内部事務や、庁内文書の運搬、共通の消耗品の補充作業などを行っています。

「かいしゃだいがく」設立

働くことを学び化して唯一無二の大卒資格「企業と星槎大学の連携

働くことを学び化して唯一無二の大卒資格「企業と星槎大学の連携」と笑顔が溢れていました。社会の激しい変化の中で個々の価値観も多様化する現代、「仕事」と「学び」を分けるのではなく、「仕事」をしながら変化に対応しうる幅広い教養を身につけるために「学び続ける」ことは企業にとっても極めて重要になっていきます。星槎大学ではそれを実現する新しい学びの環境として、「かいしゃだいがく」という働きながら学びすすめることができる仕組みを作りました。

そして「かいしゃだいがく」の最初の取り組みとして、創業156年の老舗かまぼこ店（㈱鈴廣蒲鉾（すずひろかまぼこ）本店（神奈川県小田原市、以下鈴廣））と共同で「鈴廣星槎大学」を4月に開校し、スタートしています。

働く社員が会社の最も大切な財産であると考え鈴廣と、星槎大学の「かいしゃだいがく」の考え方が合致し、「鈴廣星槎大学」が誕生しました。鈴廣星槎大学では、鈴廣での通常業務や研修も共生という視点で学びに変え、大学の単位となります。

仕事そのものから学ぶことを可能としたため、学びの効果も仕事への意欲も相乗効果をもたらすプログラムです。第一期生として鈴廣の新入社員から入社10年以上のベテラン社員の計12名が鈴廣星槎大学に入学し、「プレゼミ」というレポートの書き方や大学での学び方を学ぶ科目のスクーリングからスタートしました。「あつ、実は学びは楽しいんだ」

と笑顔が溢れていました。

星槎では、「大切なのはどこで学ぶかよりも何を学ぶかである」、「学歴は学校歴ではなく学習歴である」と考えています。コロナ禍で大学進学を諦める人も増えていますが、だからこそ「かいしゃだいがく」の取り組みを広げて、教育格差や教育の負の連鎖に対して私たちにできることを一つひとつ積み上げていきます。仕事の中から学ぶことは多く、働くことと学ぶことは両立でき、そして生きることとさらなる深みを与えることが可能となります。星槎大学ではこのような取組みを、これからも日本の社会に訴えていきます。

（星槎大学 中根直也）



鈴廣星槎大学入学式

「学校法人星槎こども園KIDS planet」

2021年4月1日、学校法人国際学園の35年の歴史を礎にピーターパン幼稚園、青葉台幼稚園は新法人、学校法人星槎こども園KIDS planetを設立、認可され、新たに出発致しました。

スタート



ピーターパン幼稚園、青葉台幼稚園はそれぞれ7年前、5年前から幼保連携型認定こども園として新制度に移行しました。そして社会のニーズに合った幼児教育保育施設として順調に進んで参りました。しかし、幼児教育・保育に特化した小回りの利く法人の下で、より社会情勢の変化に素早く対応したいと考えました。そこで、新たな学校法人「星槎こども園KIDS planet（キッズ・プラネット）」に両園を包括することになりました。今まで同様星槎グループとしての連携をとりながら、今後のよりよい展望に繋げて行きたいと思っています。

星槎こども園KIDS planetでは、子どもたちの素晴らしさを開花させる事を目的としました。そして、その新法人名の由来であるKIDSのKはKindness（優しき）、IはInquisitive（好奇心旺盛）【知りたがる・興味を持つ】、DはDelight（楽しく・愉快な子どもたち）、SはStar（星の

ような輝きを持つ【星槎・せいさ）、Planet（惑星）はこども園が基地となり、一人ひとり楽しく関わり合い、繋がり合いながら、個性豊かに成長し、人間味溢れ、未来に向かって輝くことを願っています。これが星槎こども園KIDS planetです。ここで、それぞれの園の特徴を少しお伝えします。ピーターパン幼稚園は五本の柱を教育目標に掲げ保育が行われています。日々の行進で丈夫な身体を作る。こどもの持つ素直な心を大切に。基本的な生活習慣を身につける。こどもたちが安心して生活が出来るような環境で情緒の安定を図りながら生活リズムを整える。更に、平成30年度に改訂された幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育みたい10の姿」を楽しい遊びと絡み合わせながら、日々保育活動が展開されています。そしてこれからの地域の方々、近隣の小中学校、高齢者施設の方々との繋がり、卒園児のお母様方と



ボランティア活動を通じての繋がり、関わり合いを大切にしていきたいと思っています。

青葉台幼稚園は（5年前から認定こども園になり）、生後2カ月から就学前までのこどもたちが元気に伸び伸びと生活をしています。創設以来、遊びを通して自然に学んでいく保育を重視しています。リレーごっこから運動会に、劇ごっこから発表会へとつづいて、大きな行事も遊びの延長線上にあり、こどもたちは楽しみながら学び成長しています。今年度からは、英語で遊ぶという新しい教育充実活動を加え、英語に楽しく触れ、こどもたちが今まで以上に楽しみながら学び、成長することを願っています。

ピーターパン幼稚園、青葉台幼稚園は、星槎の理念である「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」をこれからも大切に行きます。そして、優しく、何でも知りたいが、何にでも興味を持つ楽しく愉快なこども一人ひとりが関わり繋がり合い、個性豊かに成長し合う、そのような人間味溢れ、光り輝くこどもたちが未来に向かって歩む時の基地となるように努めていきたいと思っています。（ピーターパン幼稚園 内藤美智代）



星槎フリースクール霧が丘『出発』



学校法人国際学園では、2021年4月より、横浜市緑区霧が丘の星槎中学校内に、「星槎フリースクール霧が丘」をスタートしました。

同敷地内にある星槎中学校には、例年600件ほどの問い合わせをいただいております。早い方ですと、幼稚園・保育園の未就学児の保護者から問い合わせをいただいております。ここ数年さらに問い合わせの低年齢化は進み、社会に早期支援の重要性が浸透してきたことを実感します。私たち星槎では、すでに全国にフリースクールを設置し、小学校年代の学習環境を整備してきましたが、ここ横浜・霧が丘にも新たな環境をスタートさせました。

具体的には、国語、算数、理科、社会、英語などの基礎学力の定着はもちろん、何よりも子ども自身が興味を示す内容を優先して学びます。例えば、「世界巡りの旅」「パティシエになるには」「ゲーム、パソコン教室」など、児童が興味をもち出した課題を楽しく追究していきます。

講師陣も、子どもの心をつかむことに長



森室長



星槎フリースクール霧が丘の様子

けた元小学校の校長、教育委員会の元教育委員・指導主事、特別支援教育士など経験豊かで多彩な顔ぶれです。

これまでの居場所づくりではなく、子どもたち一人ひとりが生き生きと過ごし、それぞれの力を発揮することのできる『活場所（いばしょ）づくり』を目指して、子どもの心に寄り添いながら、様々なプログラムを準備していきたいと思っています。

（星槎フリースクール霧が丘教室長 森徹）

星槎道都大学の中に学習センターを新設



星槎道都大学に開設

星槎国際高校北広島は、昨年4月に北広島キャンパスとして星槎道都大学内に開校いたしました。そして令和3年4月1日より、北広島学習センターとして新たなスタートを切ることができました。

「大学とともにある高校」として、星槎道都大学の施設だけではなく、大学生や教授と共に学ぶことができる、他校にはない魅力をもった校舎です。今回は、今年度北広島学習センター「一押し」の2つの授業を紹介させていただきます。

まず、「星槎道都大学ゼミ」では、『大学を知る』をテーマに、共に学ぶ大学生の先輩たちがどのような授業を受けているのか、「星槎道都大学とはどんな大学?」「各学部の魅力や特徴は?」といった内容で大学職員の方や教授による授業を毎週実施しています。各学部について学んだ後、専門の教授による体験授業を受講することで大学をより身近に感じることができています。

次に、「デッサンゼミ」では大学の講義に高校生が参加し、デッサンの基礎や美術の専門知識を教授から教わる授業を取り入

れています。大学の造形デッサン室で自分の作品に没頭できる時間はとても貴重な体験となっています。

北広島学習センターとして大学内に高校が常設されたことで、星槎出身の星槎道都大学生のみなさんが日々訪ねてきてくれます。北広島学習センターの生徒たちも、先輩たちから高校生活や大学の話を聞いて、将来の自分をイメージしながら過ごしているようです。

今後は、2023年に開業される「北海道ボールパーク」でさらに盛り上がる北広島市と一緒に盛り上げられるような活動にもチャレンジしていきます。地域・大学と共に、この学習センターだからこそできる学びを展開していきたいと考えています。

（星槎国際高校北広島センター長 伊藤夏海）



大学教室を利用した授業

ブータン山の教室

開催

4月3日より全国の劇場で順次公開中のブータン映画『邦題：ブータン 山の教室』（LUNANA・AYAKIN THE CLASSROOM）を、公開前の3月30日に星槎グループに限定し、教室オンライン試写会を開催しました。映画を観たあと、パオ・チヨン・ドルジ監督によるトーク・イベントもオンラインで行いました。

メイン会場は、RTC (Royal Thimphu College) との交流プログラムで拠点となる星槎国際高校・八王子学習センター・高尾キャンパス。そのログハウスから星槎国際高校の全国各校舎、星槎学園、星槎大学、星槎道都大学をオンラインで繋ぎ、生徒・職員総勢200人以上でブータン映画を観ることができました。

また、星槎グループに留学中のブータン人留学生ベンジョさん（星槎大学）とRTC卒業生のジミーさん（星槎国際高校八王子職員）は試写会場のログハウスにて、タンデインさんとキンレイさん（星槎道都大学）、そしてベマさん（東京大学公共政策大学院）はオンラインで鑑賞しました。

ブータン人留学生の男子は民族衣装の



感想

- ・自分たちの環境が恵まれていること、美しい景色で心に響く作品だった。
- ・貴重な体験をさせていただき、感謝しております。
- ・本日は、心にしみる映画ありがとうございました。
- ・人の幸せについて考えさせられました。
- ・少し抑え目な映像と空気感が感じられる。
- ・ルナナの子どもたちが超かわいかった。
- ・ブータンの文化、教育環境の実態を知ることができ、自分たちが良い教育環境で育つことができていることが嬉しいことだと思うことができた。
- ・ブータンでの人々の生活や文化を知ることが出来たので良かったです。
- ・ブータンの人々の温かさが伝わってくる映画でした。村の人達はみんないい人達だと思いました。
- ・人間だけでなく動物と共に生きる環境を作る大切さを感じた。
- ・沢山のメッセージが詰まった素晴らしい映画でした。
- ・ブータンをもっと知ってみたい、実際に行ってみたい、あの空気を感じてみたいという気持ちが生徒に沸いたことはすばらしく思います。
- ・授業で地球温暖化などについて勉強することはありますが、実際に変化を肌で感じたり、目の当たりにすることがないため自分事としてとらえるのが難しい。
- ・山での洪水の話は衝撃的でした。
- ・今度は映画館で美しい映像と音で空気感を感じてみたいと思います。
- ・日本では7歳から15歳まで義務教育で学校に行くことが当たり前の国です。だから、教育の有難さは感じにくいです。
- ・学校がない、学校に行っても教えてくれる先生がいないルナナのような環境は想像出来ませんでした。
- ・毎日、楽しそうに学ぶルナナの子どもたちは輝いて見えました。
- ・自分も学ぶことを楽しみたいと思いました。
- ・黒板とチョークも、ヤクのフンが材料なのかな？
- ・映画の中で、ルナナの大人も子どもも「先生は未来に触れられる職業」と言っていて、それは「勉強して知識が増えたと未来の選択肢が広がる。その生徒の成長（未来）に携われる職業が先生だ。」と解釈しましたがルナナの人たちの、その言葉に込めた想いや考えを聞いてみたい。
- ・ヒマラヤの雪解けは「雪の獅子が逃げようとしている」と言っていたのが印象的だった。そのようなルナナに伝わる伝説みたいなお話を他にも聞いてみたい。
- ・ラストシーンは描かれていなかったが、主人公はルナナに戻ったと思う。
- ・パーで歌った歌は聴衆に響かなかったが、「ヤクに捧げる歌」のような意味を持つ歌は誰かの心に響くんだと思った。
- ・主人公は「ヤクに捧げる歌」を覚えてくれた彼女と結婚しただろう。
- ・最初から最後まで何か懐かしかった。ホッとする映画を久しぶりに観ることができました。ありがとうございました。

※原文のまま転記しています。

「1」、女性は「キラ」を着て出席し、パオ監督も「2」を着てスクリーン上に登場して下さいました。試写会冒頭、日本人生徒・職員も全員ゾンカ語で「クズサンポー」(日本語で「こんにちは」と挨拶を交わし、温かい雰囲気の中でイベントが執り行われました。試写会に参加した生徒たちからのいろいろな感想を聞きながら、パオ監督は「映画は観客から認められることが重要だと思っています

す。そして、観てもらってはじめて完成するもの。皆さんの言葉がアーティストを鼓舞し、もっと作りたいという気持ちにさせてくれます」と嬉しそうに話をしてくれました。

そして、「世界がグローバル化し、この映画の主人公ウゲンのようにブータンの若者は光を求めがちです。本作でいうとオーストラ



全国より参加



メイン会場の様子

リアのシドニーという現代社会に幸せを求めています。ルナナはブータン語で「暗闇の谷」という意味なのですが、本当に一番遠くの僻地で、グローバルゼーションとは真逆のところなんです。そこを旅する、つまり暗闇の谷を通ること自分の文化の大切さと、それを保存することの大切さを初めて知るのです」。また作品に込めた思いを語ってくれました。さらに、パオ監督は、「オンライン上の画面越しに沢山の生徒の顔が見えます。今回、アドバイスを申し上げるとしたら、日本或いはブータンそれぞれの伝統文化を大切にしてください。それを大切にするのが、教育、学校の定義になってくると思います」とメッセージをくださいました。

この映画は、ブータンの秘境ルナナ村に都会から赴任した若き教師と村の人たちや子どもたちの心の交流を描いています。

(世界こども財団 石田博彰)

令和2年度 第10回

星槎全国保護者研修交流会

第10回目となる星槎全国保護者研修交流会が開催されました。昨年度は突然のコロナ禍により、中止せざるを得ない状況となったため、前回の札幌開催（星槎国際高等学校20周年記念基調講演）以来2年ぶりの開催となりました。全国各校舎での参加と自宅参加のハイブリッド型で、北は北海道旭川、南は沖縄まで、総勢343名の保護者が参加しました。

日本で唯一の全国にまたがる星槎の保護者会「星槎全国親の会」は、「できる人が、できる時に、できることを」をモットーに、親同士が繋がり合い、学び合い、笑顔になり、子どもたち、そして学校を支えることを大切にしています。「星槎全国保護者研修交流会」は、そのスタート当時は



研修交流会へ参加する沖縄の様子

当たり前ではなかったオンライン会議システムを駆使しながら、研修と交流を通して全国が繋がり、10回に渡って開催されてきた伝統あるイベントです。今回は事前アンケートで保護者より要望の多かった「東日本大震災から10年」【COVID-19】というテーマで研修が行われました。東日本大震災における復興支援活動の協働以来、星槎をいつも温かく見守り、応援してくださっている特定非営利活動法人医療ガバナンス研究所理事長で医師の上昌広先生と、ナビタスクリニック 理事長で医師の久住英二先生にご登壇いただきました。お二方とも普段の本業に加え、テレビ朝日系列「グッドモーニング」や、「中居正広のニュースな会」をはじめ、日頃から数多くのメディアに出演されており、たいへんご多忙な中、貴重なお話をいただくことができました。「星槎グループとの二人三脚の活動・東日本大震災から10年の経験」というテーマでお話しいただいた

上先生からは「誰かになること」の大切さ」という、被災時に生きた星槎の仲間作りについての力強い応援メッセージをいただきました。

「COVID-19と学校生活」というテーマでお話しいただいた久住先生からは、科学的データに基づく、客観的専門的見地からの新型コロナウイルスの最新状況と対策、そして今後の見立てについてのお話がありました。学校や子どもと関わるすべての家庭にとって、心に留めておくべき学びがありました。

研修後、星槎全国生徒会の会長二名より、全国各校舎が独自に設定するSDGsに関する取り組みや星槎最大の学びの祭典、SESA Africa Asia Bridge (S A A B .. サープ) の取り組みなど、1年間の活動報告があり、最後に「親の会 presents 星槎の歌」を視聴。感動の中で終了しました。

「会を通じて多くの気づきがあった」「貴重な機会で、勇気をもらえた」などの保護者の方々のメッセージが印象的でした。星槎全国親の会ではこれからも「誰かになる」ことを大切にしながら、全国の保護者を、子どもたちを、そして学校を笑顔で支えていきたいと考えています。

上先生、久住先生はじめお世話になりました全ての皆さま、ありがとうございました。

(星槎国際高校沖縄

センター長 下條隆志)

あしべつ宿泊交流センター 2号館完成に寄せて



オープニングセレモニーの様子

1999年の星槎国際高校の開校以来、私たちのスクーリングを支えていただいている芦別市。たくさん生徒が大自然のもと、身体全体で学び成長のきっかけをいただきました。星の島の農場実習はもとより、冬のスキー実習ではスキーだけではなくダイヤモンドダスト体験など多くの経験を積むことができました。これもひとえに芦別市の皆さんの様々な場面でのご協力があったからこそです。

まるで芦別温泉のように温かな気持ちに包まれるのも、芦別でのスクーリングの良さでもあります。卒業した生徒が大学の長期休みに

ふらりと立ち寄って、スクーリングの思い出を語ってくれた時もあります。

さて、その芦別市に、2021年5月に新しい宿泊施設が完成しました。

星槎の仲間がともに語り合い、ともに体験をし、笑顔で学ぶ新たな宿泊施設です。星の降る里のキヤッチフレーズ通り、降り注ぐような満天の星空が皆さんを迎えてくれるでしょう。芦別市のシェフによる食事は体に染み入り、その日の活躍を約束してくれるでしょう。

(星槎国際高校教頭 牧野秀昭)



SEISA Africa Asia Bridge Photo Report 2021.11.13



詳細レポートは次号にて掲載いたします。
オンライン放送のアーカイブはHPからご覧ください。
<https://seisasaab.com/>

世界のこどもたちの未来づくりに ご参加とご協力をお願い申し上げます

賛助会員の
ご案内

個人会員

年会費 6,000 円／一□

法人会員

年会費 120,000 円／一□

- 当法人への賛助会費、寄付金は税法上の優遇があります。
- 詳しくはホームページをご覧ください。
- ご入会・ご寄付の方法については、電話やメールでもご案内いたします。
まずはお気軽に下記の事務局までお問合せください。

公益財団法人
世界こども財団
FGC—Foundation for Global Children

事務局

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2

TEL: 0463-74-5359 FAX: 0463-74-5374 E-Mail: fgc@fgc.or.jp

★寄付型自販機を設置しませんか？

飲料メーカーと連携し、「寄付型自動販売機」の設置をしています。
自動販売機の売り上げの一部が当財団への寄付につながります。
事業所などに設置を検討されている方がいらっしゃいましたら、
ぜひご連絡をいただけますよう、お願い申し上げます。

星槎グループニュース編集室（桑原・脇屋・前田編集委員）
〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2
TEL. 0463-71-6046 | FAX. 0463-60-3507 | Email: seisa@seisa.ac.jp
制作：岡村直実（JC ユニット） | 印刷：フルサワ印刷株式会社

表紙の写真

- ① 星槎都大学構内に星槎国際高校 北広島を設置
- ② 星槎フリースクール霧が丘教室案内
- ③ SEISA Africa Asia Bridge
- ④ KIDS Planet 園児たち
- ⑤ 「山の教室」オンライン試写会の様子
- ⑥ プータン・パラリンピック選手団